

「主体的・対話的で深い学びに向かうための
授業改善」実践事例

つばさ学級

自立活動の学習を通して



1 子どもが見通しをもち、 自分の考えや思いを主体的に表現するための工夫

教科 自立活動「交流学习」

【学習のねらい】

- 近隣の特別支援学級の友達の顔や名前を知り
楽しく交流する。
- 声の大きさを調整し、相手に聞こえる声で話す。
- 相手が話しているときは聞く。
- 公共施設を利用する体験を通して、人や環境に配慮した生活やマナーを守ることの大切さを知る。

1 子どもが見通しをもち、 自分の考えや思いを主体的に表現するための工夫

(1) ウェブ会議システムの活用

ウェブ会議システムを用いて交流を行った。画面越しに交流相手がいることにより、顔なじみの無い人への抵抗感を感じる児童にとって、適度な距離感と緊張感をもって交流を進めることができた。



1 子どもが見通しをもち、 自分の考えや思いを主体的に表現するための工夫

(2) 交流学習のしおりの活用

しおりを使って、交流学習を行うときの日程や公共施設の使い方などについて事前指導を行ったことで、交流学習への見通しをもち、マナーを守って活動をする事ができた。

交流学習のしおり

令和5年7月7日、
拝志・上林小連合 特別支援教育部

1 日時 令和5年7月18日(火) 雨天決行、
2 場所 レスパシティ(東温市見奈良1110)。
ワールド・ドリームサーカス愛媛公演、
クールス・モール、
3 参加者 拝志小学校特別支援学級 児童2名 教職員2名、
上林小学校特別支援学級 児童1名 教員1名 合計6名、
引率者: 紅谷 有紀、藤山 智恵、花山 弘美、
4 日程、
9:50 上林小学校発(タクシー)。
10:00 拝志小学校発(タクシー)。
10:15 レスパ・シティ着。
10:30 サーカス入場。
11:00 サーカス鑑賞(12:30まで)。
12:40 昼食(マクドナルド)・買い物(フジ)。
13:45 レスパ・シティ発(タクシー)。
14:00 拝志小学校着。
14:10 上林小学校着。
5 持ち物
水筒、ハンカチ、ティッシュ、マスクの予備(必要な人)、財布。
お小遣い1500円(サーカス入場料800円、昼食と買い物700円)。
ビニール袋(ゴミ入れ用)。
障がい者手帳(提示すればサーカスの入場料が750円になります)。
※ 記名をお願いします。
6 服装
動きやすい服装(普段、登校してくる服装)、黄色い帽子、名札。



7 やくそく、
 こうつうのきまりをまもります。
 ひとにめいわくをかけないようにします。
 こうきょうの しせつを、たいせつに つかいます。
 ともだちとなかよくします。

8 おこづかい、
おこづかい 1500 円、

買ったもの、	きんがく、
サーカス、	¥800、
マクドナルド、	¥、
フジのかいもの、	¥、
のこったおかね、	¥、

9 めあて、
[]
[]
[]

2 自他を大切にし、 学び合う活動（ハイリuntime）の充実

教科 自立活動「紙コップタワー」

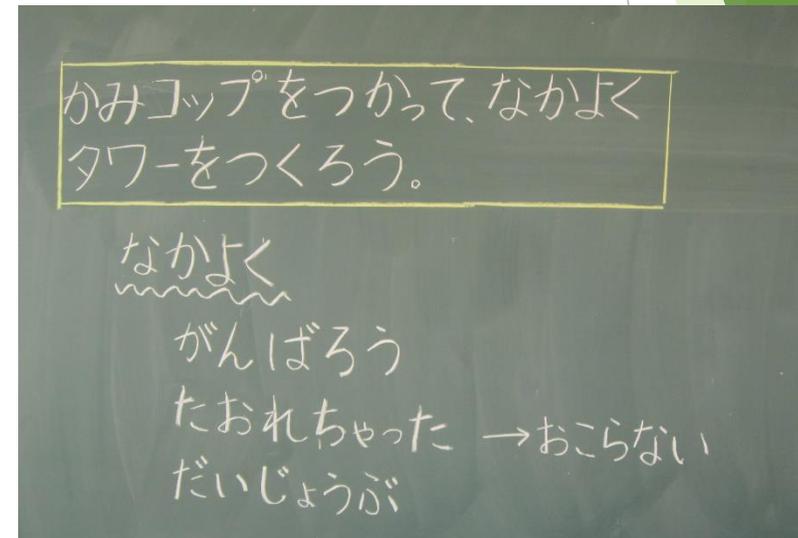
【学習のねらい】

- 友達と一緒に関わり合いながら活動することを楽しむことができる。
- 友達と気持ちよく活動するために場に応じた適切な言動を身に付けることができる。

2 自他を大切にし、 学び合う活動（ハイリントタイム）の充実

(1) 自分の考えをもつための工夫

発達段階や特性にばらつきがあるため、まずは教師や支援員が1対1で声を掛けながら児童の思いや考えを表現できるようにした。その後、友達の前で発表することで、互いの考えを理解することができた。



2 自他を大切にし、 学び合う活動（ハイリントタイム）の充実

(2) 考えや気持ちの代弁

教師も一緒に紙コップタワーをつくりながら、紙コップの高さや形についてのアイデアを出したり、児童の考えや気持ちを代弁したりすることで、児童同士が仲よく活動することができた。



3 学びの成果と自己の成長を実感し、 次の学びにつなげるための振り返りの工夫及び評価

教科 自立活動 「季節の制作物をつくろう」

【学習のねらい】

- **制作を通して、表現することを楽しむことができる。**
- **自分の思いに合わせて色や目玉などを選ぶことができる。**
- **友達とのやりとりを楽しみながら活動できる。**

3 学びの成果と自己の成長を実感し、 次の学びにつなげるための振り返りの工夫及び評価

(1) 活動のゴール

つくり方を説明することで、活動に見通しや完成作品のイメージをもつことができた。また、1度つくってみると、あっという間に作品ができることが分かり、試行錯誤しながら絵の具の色や配置を工夫し、面白い作品をつくらうと意欲的に活動した。



3 学びの成果と自己の成長を実感し、 次の学びにつなげるための振り返りの工夫及び評価

(2) 掲示場所の工夫

教室入口に掲示することで、いつでも作品を見ることができるようにした。そうすることで、友達の作品を見て自ら感想を教師に伝えることができた。

廊下に掲示することで、全校児童や教職員に作品を見てもらえるようにした。教職員から感想を伝えることで、児童は満足感や達成感を感じることができた。



成果

- 近隣の小学校の特別支援学級の友達と会って交流することで、次は〇〇に行きたい、〇〇がしたいなどと自分から交流したいという思いをもたせることができた。
- 特別支援学級が安心できる場となったことで、交流及び共同学習では自分の考えを友達に伝えようとする態度が育った。また、友達の思いや考えに気付き、それを分かろうとすることで、たくさんの友達と仲よく学校生活を送ることができた。

課題

- 特別支援学級内では年齢差などから児童同士で意見を出し合うことやアドバイスをするなど対話的な学習には至らなかった。そのため、交流学級との活動を通して、それぞれの発達段階に合わせた表現方法や学習方法を探求していきたい。